

【事業の経緯】

別添資料1

道建-1

一般国道206号(小迎バイパス)事業の経緯

審議経過	再評価 の理由	工 期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初 (H13 新規評価)	—	H13	H20	300.0	2.3	延長=6.1km 幅員=13.0(20.5)m
第1回審議 (H22)	事業採択後 10年経過	H13	H24	216.4	1.20	延長=6.1km 幅員=7.0(10.5)m
第2回審議 (H29:今回)	事業完了後 5年経過	H13	H24	210.9	1.24	延長=6.1km 幅員=7.0(10.5)m

事後評価結果（平成 29 年度）

整理番号	道建-1
担当課	道路建設第一課
担当課長名	村川 康孝

事業名	一般国道206号 小迎バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	長崎県
起終点	自：長崎県西海市西彼町小迎 至：長崎市西海市西彼町大串	延長	6.1km		

事業概要

一般国道206号は長崎市を起点として佐世保市に至る路線であり、長崎市と佐世保市を連絡する幹線道路である。当該区間は長崎市と佐世保市を1時間で結ぶ目的で整備を進めている「地域高規格道路西彼道路」の一部となるバイパス区間である。

事業の目的・必要性

小迎バイパスは、平成17年度に供用済の江上バイパスの南伸区間で、西彼杵道路の一部を構成するとともに、県内2時間交通圏の拡大、西彼杵半島地域と佐世保地域の時間短縮による地域振興、社会経済の活性化を目的としている。

事業概要図



工期	着工	H 13 年度						
	完了	H 24 年度						
事業費	再評価時点(H22)	216.4 億円						
	最終	210.9 億円						
B/C	再評価時点(H22)	1.20	総便益(B) 307 億円	総費用(C) 260 億円	基準年度 H 22 年度			
	事後評価時点	1.24	総便益(B) 371 億円	総費用(C) 298 億円	基準年度 H 29 年度			
事業期間	事業化年度	H 13 年度	用地着手	H 13 年度	供用年 (再評価)	H 24 年度	変動	1.0 倍
	都市計画決定	H 年度	工事着手	H 13 年度	(実績)	H 24 年度		
事業費	再評価時	(名目値)	216 億円	実績	(名目値)	211 億円	変動	1.2 倍
		(実質値)	243 億円		(実質値)	296 億円		
交通量 (当該路線)	再評価時	12,500 台/日 (H42推計)			実績	12,700 台/日 (H42推計)		
		変動				1.0 倍		
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)		47.0 → 69.1 km/h (供用直前年次) H 22 年度 (供用後年次) H 27 年度			交通事故減少 (供用前→供用後)		14 件 → 6 件	
費用対効果分析結果 (再評価)	B/C	1.20	総費用	260 億円	総便益	307 億円	基準年	
			(事業費)	259 億円	(走行時間短縮便益)	256 億円	H 22 年	
			(維持管理費)	1 億円	(走行経費減少便益)	36 億円		
					(交通事故減少便益)	15 億円		
費用対効果分析結果 (事後)	B/C	1.24	総費用	298 億円	総便益	371 億円	基準年	
			(事業費)	296 億円	(走行時間短縮便益)	345 億円	H 29 年	
			(維持管理費)	2 億円	(走行経費減少便益)	19 億円		
					(交通事故減少便益)	7 億円		
事業遅延によるコスト増			費用増加額		便益減少額			
			38億円		-64億円			

	事業遅延の理由	
	平成22年度の再評価以降、事業の遅延は無い。	
	客観的評価指標に対する事後評価項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞の解消 小迎交差点における最大渋滞長 L=180m(H24) ⇒ L=30m(H25) ・所要時間の短縮 指方～大串間19分(H23) ⇒ 13分(H25) 	
	その他評価すべきと判断した項目	
	特になし	
事業による環境変化	環境影響評価に対する項目	
	環境影響評価については、対象外である。	
	その他評価すべきと判断した項目	
	特になし	
	事業を巡る社会経済情勢等の変化	
	平成17年1月4日に、西彼町・西海町・大島町・崎戸町・大瀬戸町の5町が合併し西海市となり、旧5町の連携を活かした町づくりを進めている。	
	対応方針	
	当該事業に係わる対応方針 (今後事後評価の必要性及び改善措置の必要性)	
	この事業により、交通渋滞の緩和や所要時間の短縮などが図られており、通過交通の転換により地域住民の住居環境も向上するなどの効果もみられることから、今後事後評価及び改善の必要はない。	
	同種事業に係わる対応方針 (同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性)	
	今後も走行時間短縮や走行経費、交通事故減少に限らず、企業進出や定住人口の拡大等の効果も、評価に含めていくべきと考える。	
	特記事項	
	特になし	

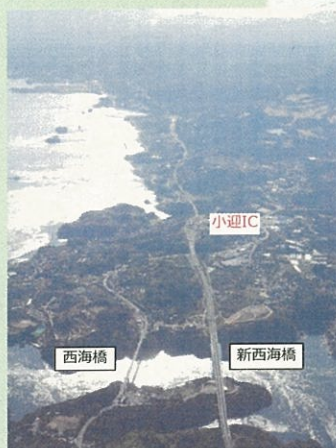
平成29年度 長崎県公共事業評価監視委員会

事後評価対象事業 道建-1 道路改築事業 一般国道206号 (小迎バイパス)

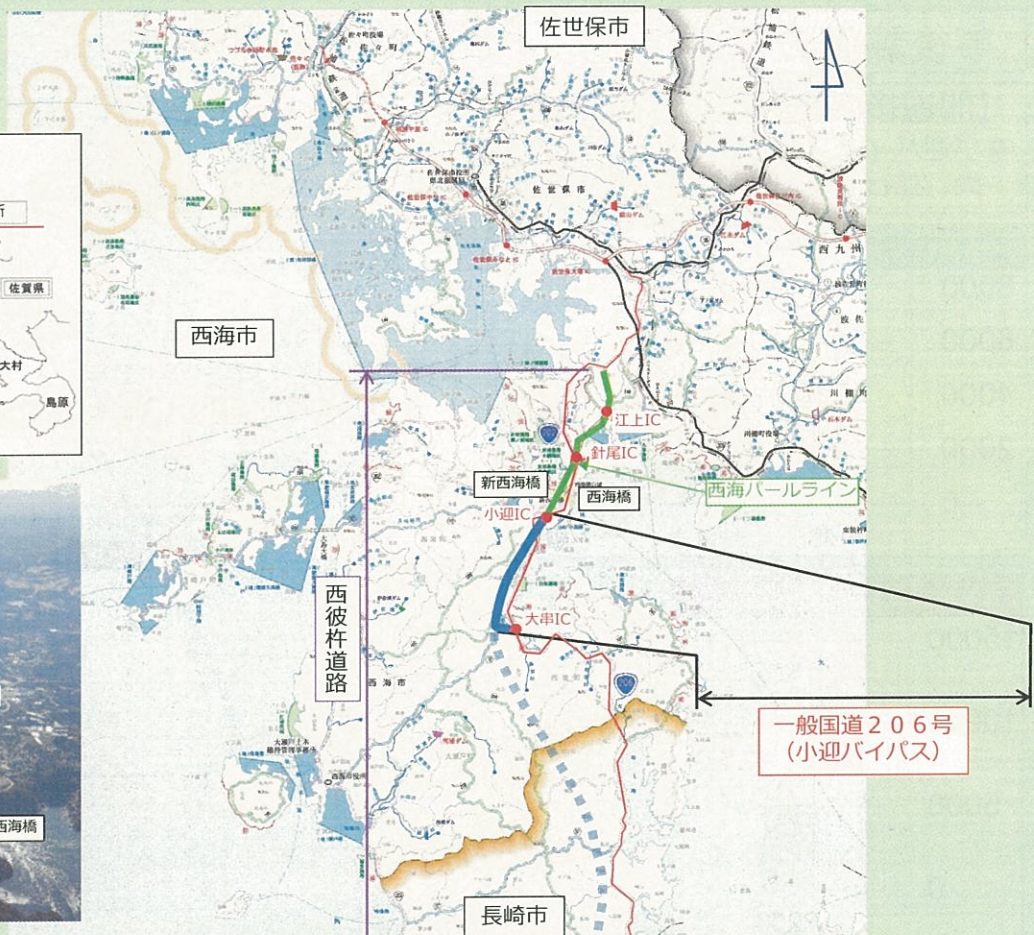
長崎県

1

位置図

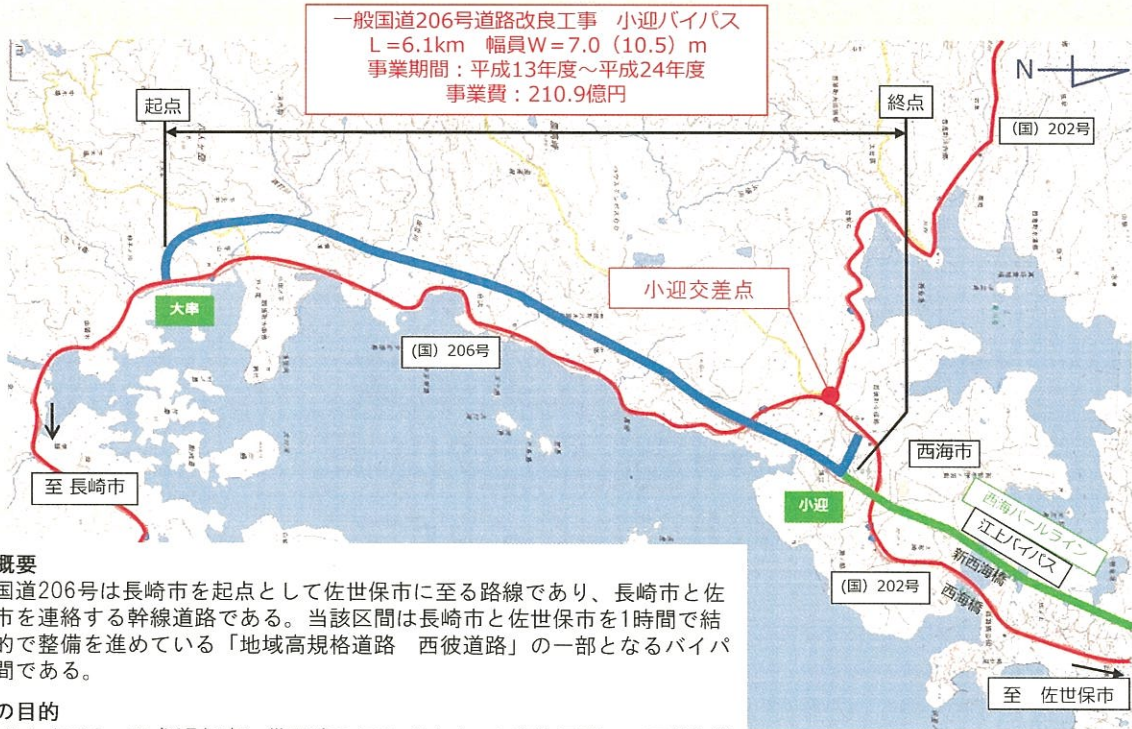


西海橋方面より望む



2

事業概要及び目的



事業概要

一般国道206号は長崎市を起点として佐世保市に至る路線であり、長崎市と佐世保市を連絡する幹線道路である。当該区間は長崎市と佐世保市を1時間で結ぶ目的で整備を進めている「地域高規格道路 西彼道路」の一部となるバイパス区間である。

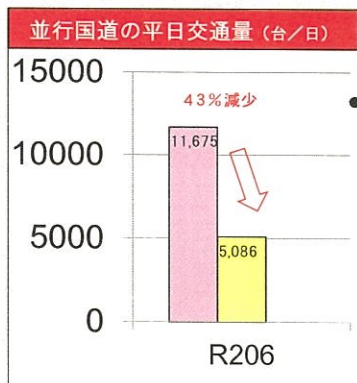
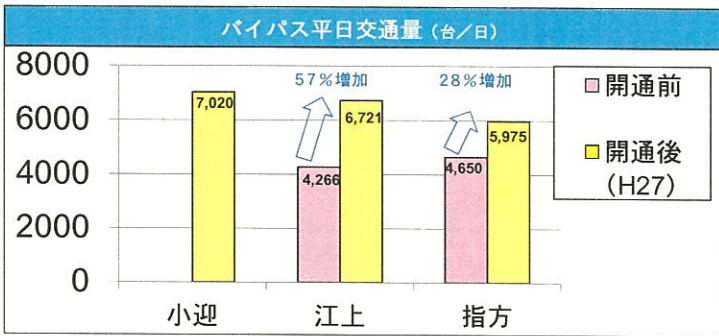
事業の目的

小迎バイパスは、平成17年度に供用済の江上バイパスの南伸区間で、西彼杵道路の一部を構成するとともに、県内2時間交通圏の拡大、西彼杵半島地域と佐世保地域の時間短縮による地域振興、社会経済の活性化を目的としている。

3

事後評価の視点 (1)

【開通後の交通状況の変化】
 ■小迎バイパスの開通により供用区間の交通量も増加した。尚、並行する国道206号では交通量が減少している。



<交通量調査 調査日時>
 開通前：H25.3.6
 開通後：H27.10.20



4

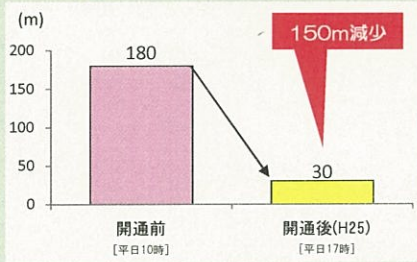
事後評価の視点（1）

【渋滞緩和による所要時間の短縮】

■小迎交差点では最大渋滞長が180mから30mへ大幅に緩和された。



【開通前後での最大渋滞長の変化】



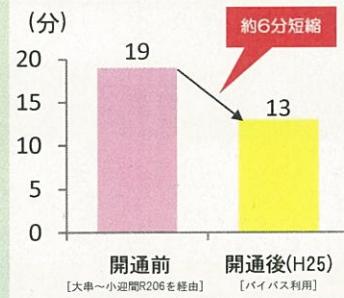
事後評価の視点（1）

【所要時間の短縮】

■渋滞緩和により、西海市大串～佐世保市指方間の平日の所要時間が最大約6分短縮された。



指方～大串間
【夕ピーク時 長崎→佐世保方向の所要時間(平日)】



開通前ルート
(指方～小迎間：バイパス)
(小迎～大串間：国道)
開通後ルート
(指方～小迎間：バイパス)
(小迎～大串間：バイパス)

事後評価の視点（2）

【費用対効果の算定基礎となった要因の変化】

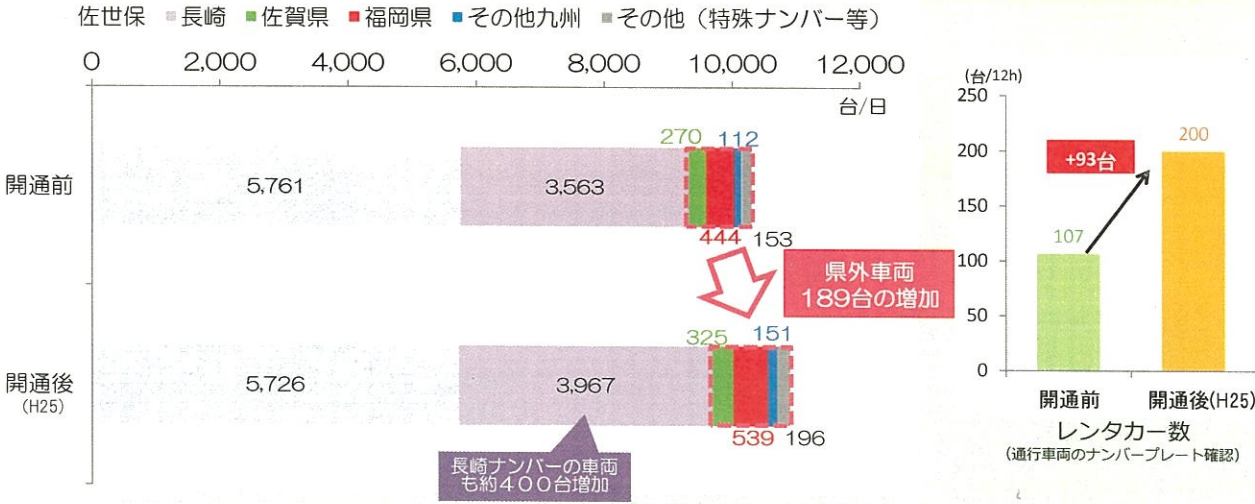
	H23再評価時		事後評価時
事業期間	平成24年度	➡	平成24年度
事業費	216.4億円	➡	210.9億円
交通量	12,500台/日 (H42推計)	➡	12,700台/日 (H42推計)
費用便益比	1.20	➡	1.24

7

事後評価の視点（3）

地域経済（産業）の成長

【県外ナンバー及びレンタカー交通量の増加】
 ■ 県外ナンバー、レンタカー交通の増加も見られ、周辺施設からの聞き取り結果からも、バイパスの開通を契機とした地域への来訪者増加が確認された。



周辺事業所からの聞き取りの結果

■ ホームプラザナフコ西海店
 開通前は渋滞で移動時間がまちまちだったが開通後は時間短縮、定時性を感じ、非常に通勤しやすくなった。



■ ふれあいの里清水
 ・直売所めぐりをするお客様が増えた。
 ・レンタカーの交通量が増えた



■ 西彼とれたて処
 ・開通により時間短縮、定期的な搬入が可能になった事から新たな商品（お弁当等）を販売する事が可能になった。
 ・売上が例年より1~2割程度増えた。



8

【工業団地開発促進・企業進出】

■西彼杵道路開通に伴うアクセス向上により周辺地域では工業団地造成がなされ、新たな企業の進出が相次いでいる。

「長崎県は人材の宝庫」
山下金型、西海市で立地発表

西海市に計画調整事務所、新たな人材の進出を促す。西海市は、人材の宝庫として知られている。西海市は、人材の宝庫として知られている。西海市は、人材の宝庫として知られている。

[長崎新聞平成29年3月31日掲載]

[参考] パールテクノ第1期整備計画

造成計画	H25.10~H27.4
分譲面積	4.3ha
売却済	2.0ha

	(有)元尾鉄工所	(株)山下金型
所在地	長崎県西彼杵郡時津町	静岡県袋井市
地元雇用数	40人	20人
進出先	パールテクノ西海	西彼町喰場(旧支所)
操業予定	H30.4	H29.7

■西海市役所 商工企業立地課
・西彼杵道路の開通を契機に『アクセス向上』を最大のセールスポイントとして誘致活動を展開している。



■(株)山下金型
・元々静岡県で操業していたが、地元出身の従業員から、バイパス整備で利便性が向上していると話を聞いていた。その印象が強く、当地に進出した。



【定住人口の拡大】

■西彼杵道路開通後、大串インターに近接する『パールタウン西彼』では、造成が追加されるなど、アクセス向上を生かした定住人口拡大が進んでいる。

[追加計画の概要]

区画数	約16区画
分譲開始	H31 予定

[パールタウン西彼1期の状況]

整備計画	H13.4分譲開始
分譲区画数	全36区画
区画残数	3区画 ※H29.4末現在
販売の動向	毎年継続した契約達成

【整備計画1期契約件数】



H13~H24小迎バイパス事業、H17江上バイパス供用の効果により、契約が進んでいる



■西海市役所 財務課
・これまでは市内からの移住が大半だったが、江上バイパス開通後は、市域外から多く契約をもらっている。
・小迎バイパスが開通した今、さらなる定住人口拡大に向けて追加計画を進めている。



【観光客の増加】

■ 西彼杵道路開通に伴うアクセス向上により『長崎バイオパーク』では近年入場者数が増加傾向である。



事後評価の視点（4）

【今後の事後評価及び改善措置の必要性】

この事業により、交通渋滞の緩和や所要時間の短縮などが図られており、通過交通の転換により地域住民の居住環境も向上するなどの効果もみられることから、今後事後評価及び改善の必要はない。

【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】

今後も、走行時間短縮や走行経費、交通事故減少に限らず、企業進出や定住人口の拡大等の効果も、評価に含めていくべきと考える。